

■ 2006年8月15日(火曜日)

地域の魅力を全国へ

ブランドづくりを応援しています

本県には、全国に誇れる自然、歴史・文化、食、観光地、特産品、産業などの「地域資源」がたくさんあります。

しかし、それぞれ単体で全国の人々の関心をひきつけるだけの強い個性や優位性を有しているものは、必ずしも多くはないのが現状です。

そこで、県では、県内の熱意と意欲のあるグループが、それぞれの地域資源を結びつけ「地域ブランド」へと磨き上げ、ビジネスとして継続的な取り組みに発展させる主体的な取り組みを応援しています。

※地域ブランド

自然や歴史・文化、食や観光地など、その地域にある「地域資源」の付加価値を高め、他の地域との差別化を図ることによって、情報発信力や競争力に優れ、地域住民の自信と誇りだけでなく、訪れる旅行者や消費者等に共感や愛着、満足度をもたらすもの。

三国湊魅力づくりプロジェクト

今に息づく湊の歴史と町並み景観

北前船が往来し、日本海有数の港として栄えた三国湊。町並みには、商人、町人、職人が栄えた歴史文化の面影が今も残っています。これらの町並みは、三好達治や高見順など多くの文人を魅了しました。

プロジェクトでは、ボランティアガイドとともに「旧森田銀行」や「旧岸名家」など三国港の町並みをめぐる「歴史文化散策ツアー」や東尋坊の豪快な景色を海から楽しめる「クルージングツアー」を企画・運営しています。

こうしたツアーの拠点となるのは「三国湊座」。かつて三国にあって、にぎわいを集めた芝居小屋「三国座」「湊座」をイメージして造られました。

ここでは、地元の食材を活かした「三国バーガー」や「メロンかき氷」などが食べられるほか、揚げ酒まんじゅうや荒磯染めの製品などのお土産も購入できます。

また、近くのジェラート店「カルナ」では、地元産にこだわった「三国の海の塩」や「ほうれん草」のジェラート、甘さを控えたやさしい味わいのスイーツが楽しめ、町並みのそぞろ歩きに魅力を加えています。

そのほか、北部丘陵の豊かな自然を生かした農体験ツアーや地引網体験など、さまざまなイベントが用意されており、休日ともなると県内外から多くの観光客が訪れ、三国湊は活気づいています。



町中散策の拠点として今年4月にオープンした「三国湊座」。ツアー受付のほか、文化催事場や食堂など多彩な機能を有している



地元の食材にこだわったオリジナルバーガー

【問合せ先】

三国湊魅力づくりプロジェクト実行委員会

坂井市三国町北本町4-6-46

TEL0776(81)3225

<http://www.mikuni-minato.jp/>

癒しと体験の旅を求めて「永平寺」プロジェクト

道元禅師の足跡を訪ねて



雑念を忘れ、瞑想にふける坐禅体験

760年余りの時を越え、道元禅師の心を今に伝える大本山永平寺。禅の里、永平寺では、訪れた人が「癒し」と「やすらぎ」を実感できるような取り組みが進められています。

道元禅師が歩んだ足跡を訪ね歩く「祖跡コース」。旧上志比村の吉峰寺から祝山、仙尾山、大佛寺山を経て、永平寺に至るゆかりの地を訪ね歩くツアーで、「禅の心」に触れることができます。

ごま豆腐などの精進料理に代表されるように、永平寺には地元の知恵と素材を活かした独特の食文化が根づいています。

柔らかく煮込んだ大根に、油が出るまですりこんだ黒ゴマなどをからめて作る「から大根」。地元の農家グループでは、この自慢の郷土料理を特産品として売り出そうと、保存方法などの研究を重ねています。

また、地元特産のニンジンを使ったゼリーームスを開発したグループ

では、新たに地元の米を使った甘酒のデザートの開発を進めるなど、活発な活動が行われています。

今月20日には、九頭竜川を舞台に「えいへいじ大灯籠ながし」が開催されます。皆さんも幻想的な光の中で、「癒し」を感じてみてはいかがでしょうか。

【問合せ先】 永平寺町観光物産協会 永平寺町東古市10-5 TEL0776(63)1188

敦賀ラーメンブランド化プロジェクト

一軒の屋台からの始まり

敦賀ラーメンの歴史は、昭和28年、今から50余年前、一軒の屋台からはじまりました。その後、屋台は徐々に増え、昭和40年代に入ると国道沿いに多くの屋台が立ち並ぶようになり、「ラーメン街道」と呼ばれるほどの賑わいを迎えます。今では店舗や昔ながらの屋台など、さまざまな形でラーメンを味わえるまちとなり、県外からも敦賀の味を求めて多くの人たちが訪れています。

豚骨や鶏ガラを煮出したスープには、悪玉コレステロールの増加や動脈硬化を予防する成分が含まれており、意外とヘルシー。おいしいだけでなく、飲んだ後の一杯にも、ちゃんと理由があるようです。

敦賀は港町。カニやふぐ、昆布など豊かな海産物に恵まれています。プロジェクトでは、これらの素材を生かし、敦賀独自の味を持つ新しいラーメンの開発・販売やお土産品の開発に取り組んでいます。

今年10月には、関西からの新快速が直接敦賀駅に乗入れます。「ちょっと敦賀までラーメンを」と、敦賀の味と港町の風情を求めて多くの人が訪れるよう、魅力づくりが進められています。



夜8時頃になると現れる屋台ラーメン。敦賀の味を求めて県内外からお客さんが訪れる



ズワイガニでダシをとったスープに昆布を練りこんだ細い縮れ麺の試作品

【問合せ先】

敦賀ラーメンブランド化プロジェクト実行委員会

敦賀市神楽町1-3-13

TEL0770(20)0015

<http://www.tsuruga-raumen.jp/>

若狭三方五湖安らぎと共生プロジェクト

海、山、里の魅力体験

昨年11月、三方五湖はラムサール条約に基づく登録湿地となりました。

貴重な鳥や魚たちが住む自然豊かな湿地。ラムサール条約では、こ



自分たちで作った「いかだ」から海へジャンプ。
からだ全体で若狭の自然を満喫



湖畔をウォーキング(久々子湖)

うした国際的に重要な湿地を登録し、豊かな自然環境を保全しながら、WISE USE(賢明な利用)をすることとしています。ここでは、美しい環境づくりや生き物の保護活動、自然体験を中心にした観光など、自然環境を生かした取組みが進められています。プロジェクトでは、三方五湖のWISE USEをテーマに、子どもから大人まで、さまざまな世代で楽しめる自然体験プログラムを提供。湖でのカヤック体験や自然散策、湖畔での魚釣りなど、貴重な自然に包まれて「やすらぎ」を実感することができます。

また、三方特産のウメを使った梅酒づくりの体験プログラムにも取り組むなど、地元の食材を活かした魅力づくりも進められています。

【問合せ先】

若狭三方五湖安らぎと共生プロジェクト実行委員会

若狭町三方39-52-1

TEL0770(45)0113

あわら湯けむり創生プロジェクト

情緒溢れる滞在型温泉地に

県では、前述の4件に加え、7月末から新たに「あわら湯けむり創生プロジェクト」の取組みを支援することとしました。

このプロジェクトでは、「あわら温泉」と周辺地域の自然、食、歴史等を連携させ、各旅館の温泉が楽しめる「あわら温泉湯めぐり手形」の発行や屋台村の設置など、滞在型の温泉観光地を目指す取組みが始められています。

【問合せ先】

あわら湯けむり創生塾「おしえる座あ」 あわら市舟津48-19-1 TEL0776(77)1877



地元の間伐材を活用した「湯めぐり手形」



「湯めぐり手形」で特色ある各旅館の温泉が気軽に楽しめる

地域ブランドの創造は、一朝一夕でなし得るものではありません。その成否は、活動の主体である地域の皆さんが、いかに継続性の意識を持って取り組むかにかかっています。

そして、この継続性の原動力となるのが「ビジネス」の視点に立った活動の展開です。地域に

「ビジネス」の視点で 息の長い取組みを

具体的な利益をもたらすためには、地域の皆さん自ら、全国をターゲットに継続的な「地域ビジネス活動」を展開していく必要があります。

県民の皆さんの意欲的な取組みを期待しています。

この記事に関するご意見・お問い合わせは

福井県ふくいブランド推進室 TEL0776(20)0227

各プロジェクトの取組み内容についてはそれぞれの問合せ先までどうぞ

 **BACK**